

杉原千畝氏を核にした図書館経営 学校・地域との連携における読書活動

岐阜県 八百津町立八百津小学校

基本データ

所在地	加茂郡八百津町八百津 3784番地
児童生徒数	129人
教職員数	16人
蔵書数	6,498冊
年間貸出冊数	22,666冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導

【活動のねらい】

- 八百津町で生まれた杉原千畝氏の人道精神を受け継ぎ、「夢と志の芽を育む～人道教育を核にして～」を教育目標している。それを踏まえ、「杉原千畝氏の人道精神について、読書活動を通して学ぶ」というねらいを設定した。

取組・活動の概要

(1) 杉原千畝氏を核にした図書館経営

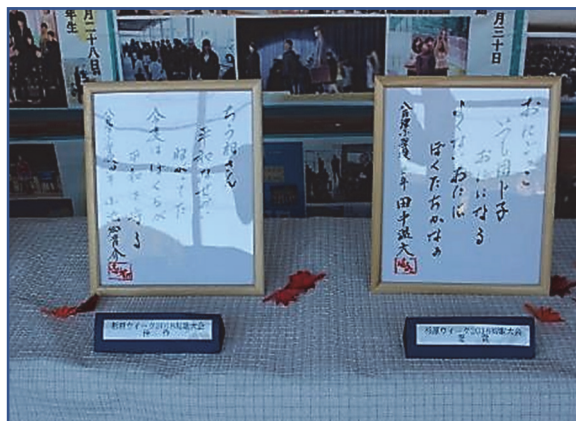
- 学校図書館の本やパンフレット、新聞記事を活用して、杉原千畝氏の学習に取り組み、人道精神を養っている。
- ①パンフレットや新聞記事を活用した資料づくり
 - 6年生の国語科の学習と総合的な学習の時間に、杉原千畝氏の功績や歴史を学び、それをパンフレットにまとめる学習に取り組んでいる。
 - 夏休みには、杉原千畝氏の関連した新聞記事を集め、「新聞切り抜き壁新聞」にまとめ、全校に発信した。
 - 図書室の本や人道の部屋の資料を活用し、それを掲示することで、杉原学習を全校児童や地域に発信している。



児童が作成した壁新聞

②人道教育の取組

- 杉原千畝氏の学習は、2年生の杉原千畝記念館訪問、中学年での本校のオリジナル曲「一枚のビザ」の歌の学習、5年生での、花を育て、地域に花と思いを届ける「人道の花運動」の活動などがある。
- 5年生が全校に呼びかけた「第19回杉原千畝記念短歌大会」では、本を活用して短歌の作り方を学び、3年生以上が短歌づくりを行った。
- その結果、今年度、学校賞に輝き、「人道の部屋」には、入選短歌を掲示している。



「人道の部屋」に掲示した入賞した短歌

(2) 学校・地域との連携における読書活動

- 読書量を増やしたり読書の広がりを持たせたりするために児童会活動を展開している。
- また、地域や家庭と連携して、共通の認識を持って取り組んでいる。

①児童会活動

- 委員会の児童が当番活動の時間を利用してその日の来館者数を集計し、少ない日は翌日の全校放送で本を借りることを呼びかけている。

- 来館者の図書室での様子も紹介し、図書室マナーの啓発にも取り組んでいる。
- 毎年6月と10月に、読書量を増やし、読書に広がりを持たせることを目標に、ブックウィークを設けている。
- 6月は「いろいろな分類の本を読もう」を目標に、偏りがちな読書の幅を「分類ビンゴ」で広げ、読書量の増加を図る取組を実施した。
- 10月は「千畝コーナーを充実させて「思いやりの心を深めよう」という目標を設定、「杉原千畝コーナー」の本をたくさん読んでほしいとの願いから、読んだ本の題名を風船の用紙に書いて、クラス毎に気球に貼っていくという『読書の旅』の取組を行った。
- 図書委員の児童が千畝コーナーに適した本を選書し、コーナーの読書を推進している。

②地域・家庭との連携

- 子どもたちが本と親しむ環境をつくりだすためには、地域や家庭が連携し、共通の認識をもって取り組む必要がある。
- そこで、PTAの母親部会や地域のサークル、保護者、地域のボランティアの方に定期的に読み聞かせをお願いし、人道精神の「思いやりの心」を育むようにしている。
- ブックウィーク期間には、校長や教頭など担任以外による読み聞かせ(読んだ本の紹介・展示)を行っている。特に、杉原千畝氏に関わる本の紹介や読み聞かせを重点に行い、杉原氏の人道精神について語るようにしている。
- ブックウィーク期間中は親子20分間読書(カードを使っての家庭での見届け)も行っている。

取組・活動の工夫や特徴

- 学校の教育目標及び地域特性や児童の実態を踏まえ、「人道精神を養うために学校図書館を有効に利用しよう」と決め、取組を行った。
- 図書室は、読書センターと学習・情報センターとして活用している2部屋と杉原千畝氏の功績を学ぶ「人道の部屋」の3つを併設している。
- 杉原千畝氏の学習を学ぶために、本だけでなく、

パンフレットや新聞記事を活用したり、杉原関連図書の読み聞かせを行ったりしている。

- 低学年から杉原関連図書を読み、その功績や人道精神を学ぶようになり、高学年では、杉原千畝パンフレットの作成や杉原千畝人道創作劇に取り組むなど、読書活動を基盤としてふるさとに誇りと夢がもてるようにしている。



杉原千畝氏人道創作劇の上演の様子

取組・活動の成果や今後の展望

- 10月の取組で、低学年でも「いのちは見える」「へいわってどんなこと？」など命や平和にかかわる本を読む児童が増えていった。
- 地域の偉人、杉原千畝氏を専門に学ぶことができる「人道の部屋」(平成29年度 杉原関連図書300冊購入)や図書室での「杉原千畝コーナー」を設置したことで、杉原関係の本を読む児童が増加した。
- 縦割りグループ(フレンドリー)や図書委員の児童による読み聞かせや本の紹介カードを設置したことで、今まで9類中心であった本が4類や5類など他の分類に広がった。
- 国語の教材と関連した並行読書を取り入れ、読み物教材の学習をすすめたところ、「国語の学習が好き」と答えた児童が、学習前の70%から90%となった。
- また、社会科の学習や総合的な学習の時間での杉原千畝氏の新聞記事や本を活用して、パンフレットや新聞切り抜き壁新聞にまとめ、図書室に掲示し、他学年に発信することができた。